

○ 障がい者関係団体ヒアリング調査結果

1 実施期間 平成23年2月15日～3月10日

2 調査団体 5団体

3 調査内容

(1) 障がい福祉サービスの種類や利用について

- ・ 現在、月・水・金曜日の9時から12時で、障がい福祉課に手話通訳者が設置されているが、足りないため、市役所の窓口業務と同じ月曜日から金曜日の終日、設置してほしい。
- ・ 市民病院に手話通訳者を設置してほしい。
- ・ 精神障がい者の対応ができるホームヘルパーが不足している。家事援助の業務をこなすだけでなく、状況変化に弱い特性を理解して、接し方等の配慮をお願いしたい。安心して利用できるように学んでほしい。
- ・ 利用者の中には、同性のヘルパーに頼みたい場合が男性に特に多い。
- ・ 本人同士の交流の場が必要。市の人口比からみても精神障がい者の日中活動の場は大変少ない。自立したいと言う願いはあっても、安心して失敗できる環境や、支援へたどり着ききっかけづくりの場が必要である。
- ・ 市の地形的特徴から、精神障がい者の本人の日中の交流の居場所があれば家から一步出て、同じ仲間との交流が図れると思う。また、本人が直接、情報を受信したり発信することができるような環境と支援を望む。
- ・ 移動支援として、ガソリン、タクシー券のサービスがあるが、本人が入院すると、返還することになっている。返還理由は本人に対する移動支援のためだが、現状は入院していても、退院促進の目的で家族へ週1～2回の面会や、外出、外泊を早期に求められ、自宅にいる時よりも交通費がかかる。愛家連に問い合わせても、愛知県下でそのような情報はないとのことだが、入院中でも外出、外泊を重ねて社会復帰をめざす必要があるので、移動支援のガソリン、タクシー券のサービスの継続をしてほしい。
- ・ 共同生活援助（グループホーム）・共同生活介護（ケアホーム）について、本人が地域で自立して生活したいと思う時、いきなり単身生活に自信が持てない当事者にとっては必要である。
- ・ 公営住宅等利用できるとうい。また、新たな事業所の参画を行政として支援してほしい。
- ・ 居宅介護については、ヘルパーが不足している。ヘルパーが安定した職であることを保証してほしい。
- ・ 生活介護については、市内の事業所はどれも定員がいっぱいである。第一、第二希望の家では、

利用者の年齢差が非常に大きくなって、同じ場所で同じように過ごすことが難しくなっている。

- ・ 就労継続支援（Ｂ型）についても、送迎サービスを実施してほしい。
- ・ 生活介護について、養護学校卒業後の日中活動の場所、生活介護が不足している。今後、3年間で10名程度の卒業予定者があり、早急な検討が望まれる。
- ・ 医療ケアを必要とする人の受け入れの充実も検討してほしい。現在、他市の生活介護利用者は、送迎費用の負担も大きいのが現実である。
- ・ ケアホームについて、現在、市内の身体障がい者のケアホームはない。地域移行といわれ、入所施設も増えない中、親は確実に年を重ねている。施設が増えないと、親がなくなったらどうしようと不安を抱える家族が多い。
- ・ 公営、県営、市営の住宅をバリアフリー化して、障がい者の住まいを確保してほしい。

(2) 地域生活支援事業について

- ・ 情報通信支援用具の聴覚障がい者向けパソコン周辺機器の購入助成費について、運転免許所得助成と同じように検討してほしい。手が使えない人などの特殊な機器には助成があるが、インターネットが普及し、FAXよりも電子メールが使用できると、便利になると思う。
- ・ コミュニケーション支援事業について、手話通訳の利用範囲が非常に狭く感じ、もっとあらゆる場面に通訳者を派遣してほしい。また、現在設定している通訳派遣の範囲についてHPなどに明確にしてほしい。現在の通訳派遣範囲では、生活上の必要最低限に達していない。
- ・ 通訳の派遣手順について、通訳者が決まったかどうかの連絡を迅速に進めてほしい。また、通訳派遣の決定通知の送付忘れがないようにしてほしい。派遣不可の場合の具体的な理由について具体的な理由を文書にて送付してほしい。却下の理由が「前例がない」「要項にない」だけではわかりづらい。
- ・ 夜中の急病や事故などの緊急時に通訳が必要になる場合、現在は個人で通訳者に連絡をして依頼しているが、個人の負担も大きい。今後は担当課だけでなく、聴覚障がい者や通訳者も含めた話し合いの場が設けて、すぐに派遣できるような体制を整えてほしい。
- ・ 聴覚障がい者は通訳者がいる月・水・金曜日を選んで、市役所に行かなければならず、ほかの日に行くと、筆談で十分にコミュニケーションを図ることができない場合があります。毎日通訳者を設置してほしい。
- ・ 相談支援事業について、相談する側は誰にも話したくない内容について相談する場合もあり、またここでは話せても、他の機関には聞かれたくない内容もあり、不用意に他機関等に伝わることのないような配慮をしてほしい。
- ・ 精神の場合、相談支援は特にデリケートな部分があるので、すぐに解決しなくても、次につながるような、具体的な方向性や配慮のある声掛けなどの支援をしてほしい。

- ・ 支援センターの電話対応時間を24時間支援体制にしてほしい。現在は要予約になっているが、地域生活をする本人、家族は、時間外（夕方や夜間）であっても少し相談することで安心できることがある。いつでも気軽に相談できると、単身者にとっては特に安心できて助かる人もいる。
- ・ 成年後見制度利用支援事業については、後見センターの検討し、実現させてほしい。
- ・ 日中一時支援事業については、緊急時・土日に利用できる場所がない。
- ・ 移動支援について、学校や就労継続支援B型等、送迎がない通所通学において、親の病気等で送迎できない時に、期間限定で移動支援利用を認めてほしい。
- ・ 月1回もしくは半年に1回、自宅訪問して障害者の話を聞いてほしい。
- ・ 障害福祉サービス、生活支援などの情報を障がい福祉課が障がい者へダイレクトメールを送信してほしい。
- ・ 福祉申請手続きを支所でできるようにしてほしい。
- ・ 有料道路料金割引は、一台の車両に限定せず、本人同乗を確認し割引してほしい。
- ・ 市役所～ハローワーク、保健センターのアクセスが悪い。シティバス路線を改善してほしい。

(3) 春日井市の障がい福祉施策・事業について

- ・ 病気になったときに、早く情報がほしい。耳が聞こえないために、救急車が来ても、何が起きているのか理解できないことがある。例えば、感染症患者に対する情報保障してほしい。
- ・ 春日井市民病院の医療従事者に対して、聴覚障がい者対応の意識向上を図るように指導してほしい。聴覚障害者全員が毎回手話通訳者を同伴できるわけではなく、または、聴覚障害は外見ではわからないため、困っていることは何かを医療従事者側が理解を深めること、診察、検査、会計の際の呼び出しは軽度でも聞き取ることができないため、手招きをしてほしい。会話には口を見れば言っていることがわかることもあるため、マスクを外すか、筆談で行ってほしい。
- ・ 春日井市、公共施設のホームページに、FAX番号を掲載してほしい。問い合わせ先に電話番号だけになっていることがあり、問い合わせるたびにFAX番号を探している。健聴者に電話してもらえば済むという問題ではなく、聴覚障がい者が自力でできることを増やすことがバリアフリーにつながる。
- ・ 自立支援法により、三障害一元化されているが、精神障害者保健福祉手帳所持者の障害者医療費助成の一般通院医療費助成の適応がなされていない。尾張北部圏域では、春日井市と小牧市のみが適用されていない。春日井市は財政難とのことだが、精神障害者は本人も家族も高齢により負担が大きく、他の障害者と格差のないように公正な支援をしてほしい。経済的にも自立してほしいが、家族への負担が大きくなる。
- ・ 家族、家族会の支援を長年にわたり保健所が担ってきた。平成14年に福祉分野の窓口が市町村に移管されたことや障害者自立支援法が改定されたことなどで、以前のような家族、家族会の支援がない。

- ・ 家族支援を含む交流の場が必要。
- ・ 行動援護については、サービス利用途中に、発作が起きたら、自家用車で迎えに行く場合、ヘルパーも同乗できるように検討してほしい。
- ・ 日中活動の場として、使われていない施設、公民館、空き店舗などの活用を検討してほしい。日中活動ばかりでなく、福祉施設が生活の場に近く、駐車場があり、身近なところに開設されれば、通いやすく、利用頻度も増える。
- ・ 「ノーマライゼーションの理念の浸透」について、「障がい」についてのノーマライゼーションという言葉が最近あまり耳にしなくなったが、この概念をもっと教育の分野に取り入れてもらいたい。社会に対して「障がい」をもっと知ってもらいたいと考える。障がいについての偏見をなくするためには、学校教育の場に障がいについての知識を養えるように、幼児期から障がいのある同年代と過ごす時間を多くし、それを小中高校、大学と継続し、肌で感じ取ってもらうことが一番良い方法だと思う。いくらノーマライゼーションと叫んでみても、個人の考えの基礎にそのような考えがなければ、真のノーマライゼーションの社会ができるわけがない。
- ・ バスの利用では、乗降時に手帳を見せているが、手帳を落とすことを心配する家族が少なくない。手帳のコピーで代用できるとよい。
- ・ 親が高齢になってきている中、市は障がい者本人の将来の生活の場をどのように考えているのか知りたい。
- ・ 単独型ショートステイや宿泊体験できるばがあると、本人の生活の幅が広がり、将来に向けての生活の場を考えるきっかけになる。また、親離れ子離れの体験の場となる。
- ・ 適切にサービスが提供されているかをチェックする仕組みがほしい。
- ・ 紙おむつの補助について、市町村の補助の基準が異なる。たとえば、障がいの進行等により、途中で紙おむつの使用が必要になった場合にも、申請を認めてほしい。
- ・ 障がい者の社会的居住施設を建設してほしい。
- ・ ろうあ者、内部障がい者が障がい者とまわりがわかるバッジを考えてほしい。
- ・ 春日井市広報に福祉欄を多く設けてほしい。
- ・ JR春日井駅のバリアフリー化を進めてほしい。
- ・ 高蔵寺駅から春日井市民病院へのバス路線を開通してほしい。
- ・ 春日井市民病院の障がい者用駐車スペースに屋根を設置してほしい。
- ・ 長年引き上げのない各種障がい者手当の増額をしてほしい。
- ・ 障がい者年金が低すぎるため、増額してほしい。